

第2回 コープぼうさい塾地震対応図上訓練



県生協連に加盟する12の生協は、阪神淡路大震災や新潟中部地震、石川県能登地震、福岡県西部地震の経験やこれから予想される直下型地震や東南海・南海地震の発生、大規模の集中豪雨・台風などの風水害がありますが、これらの災害が発生したとき①災害イメージの共有、②各生協の被害想定と初動対応上の課題の抽出、③業務再開支援に関する取り組み、④自治体と協定している応急生活物資供給に関する手続き、活動内容の確認、⑤単協と県連との連携の検証を「第2回コープぼうさい塾／わがまち減災・Mapシュミレーション」を訓練目的として、2011年2月3日(木)に大分市の全労済ソレイユ7階アイリスで45名の関係者が参加して開かれました。

大分県の防災対策については、自分の命は自分で守る「自助」、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」、行政による「公助」を基本理念とし、地域社会の防災力を向上させることによって、被害を最小限におさえる減災社会の実現に向けた「大分県減災社会づくりのための県民条例」が制定され、平成21年4月1日から施行されました。

県連としても、この県民条例の趣旨に賛同し、減災社会の実現に向けた各種取り組みを進めるために、「コープぼうさい塾／わがまち減災・Mapシュミレーション」を、地図上の地震模擬体験を通し、みんなで地震の被害を減らすためのプログラムで、会員生協の役職員と組合員が参加して2010年10月に開

催し、生協として地域での減災対応を学びました。

今回の「コープぼうさい塾／わがまち減災・Mapシュミレーション」は、日本生協連組織推進本部震災担当の亀山薫・岡山満さんが講師となつて、最初は阪神・淡路大震災での被害状況やコープこうべの発生時からの対応を示すビデオの上映があつて、参加者が9つの班に別れて別府地溝南緑断層地震(西部)が発生したことを想定し、各生協毎にどのような対応を行うか、行動が必要かについて地震対策図上訓練となりました。





シュミレーションは、2011年2月3日(木)10:00に大分県でマグニチュード6.4の大きな地震が発生し、震度6強が大分市北部、別府市、由布市中部、大分市沿岸の一部では震度7、震度6弱は大分市中部、由布市、日出町、九重町東部、玖珠町東部、震度5強は大分市西部、中津市南部、杵築市、宇佐市南部、九重町西部、玖珠町西部、その他の地域は震度5から震度4を記録している。

ライフラインは、電気は6弱以上の地域は停電、震度6強の地域は水道・ガス停止、5強以上の地域は電話は輻輳規制で通じない、携帯メールやeメールは2時間程度の着信遅れ、交通は宇佐別府自動車道全線、大分自動車道は日田～臼杵、国道10号線は宇佐～豊後大野等各地で通行止め、JRは中津～津久見、大分～日田、大分～竹田は運行停止、被害は大分市金池・王子・今鶴留、別府市中須賀、新別府、旭ヶ丘町の市街地では古い建物が倒壊、付近で火災も発生、大分市から別府市にかけての沿岸埋立地、大分川や大野川河川敷近辺では液状化現象の状況の中で各会員生協での実際の地震を想定した被害状況等に基づいて、時間と与えられた状況に対して必要な対応を対応記録票や問い合わせをロールプレイ方式で2月5日(土)までの間、各会員生協での取り組みを訓練しました。参加者からは、大切なことであるが日常業務に追われ認識が薄い、マニュアルの策定や見直し、災害時の必要備品の備蓄、訓練、通信網の確立等について再認識させられたこと、大変勉強になったとの感想もいただきました。